（別記様式）

令和６年度　京都府立福知山高等学校　学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（　実施段階　）

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
＜スクール・ミッション＞ 附属中学校を併置し、文理科学科・普通科を設置する高校として、 地域社会や国際社会の課題解決を目指す探究活動やキャリア教育を通して、質の高い学力を育み、持続可能な社会の創出を担うリーダーとして貢献できる人材を育成する。 **＜スクール・ポリシー＞** ◎育成を目指す資質能力に関する方針 **「個を活かし、公に生きる人間」の育成** **「グローカルに活躍する人間」の育成** これらの推進のため特に、 ・５Ｋ力（「感じる力」「考える力」「行動する力」「向上する力」「関わる力」） ・いつの時代においても生き抜くことができる力（汎用的能力）を身に付け、自らの「みらい」を創造する力の育成に努める。 ◎教育課程の編成及び実施に関する方針 ・大学・企業・地域との連携など高度な教育活動を通じて、質の高い学力と志を育成する。 ・本校独自の探究活動「みらい学（文理科学)」・「みらい考（普通科)」をはじめ、すべての教育活動において、「汎用的能力」を育成する。 ◎入学者の受入れに関する方針 ・自らの目標達成や進路実現に向けて強い意志を持ち、全力で取り組める生徒 ・社会の課題に関心を持ち、解決に向けて主体的・意欲的に取り組もうとする生徒 ・勉学や部活動、学校行事等に進んで挑戦しようとする生徒 ・自他を尊重し、多様性を認め、他者と協働して物事に取り組める生徒	**（成果）** １　東京大学２名、京都大学２名、大阪大学６名をはじめ国公立大学に89名、関関同立には72名など多数合格した。また、京都府立医科大学の医学部医学科の２名をはじめ、国公立大学や防衛医科大学校及び私立大学医学部医学科や歯学部や薬学部にも多くが現役合格した。就職においては国家公務員や金融機関などに合格するなど多様な進路指導の実績を残すことができた。 ２　探究活動を授業だけでなくキャリアプログラムと融合させて深い学びを実践し、地域連携やキャリア教育につなげ、各大会等で発表を行った。 ３　「スーパーサイエンスネットワーク京都」校として理数系の探究活動を大学等と連携しながらすすめ、ネットワークの発表会や大学での発表を通して、研究内容をより深めることができた。 ４　福高GLPをはじめとする国際理解教育の機会を充実させ､イノベーティブなグローバル人材育成を図った。 ５　部活動加入率は79%で文武両道を実践する者も多く、近畿大会や全国大会で活躍をする生徒もあった。 ６　人権学習やＨＲでの取組をはじめとする授業等を通じて、自他を敬愛する心や社会貢献の精神を育み、共生社会に必要となる力を育成することができた。 ７　進路指導では、授業を柱に面接指導、小論文指導、面談、にじゼミを含む講習等、教職員が連携しながら取り組むことで成果を残すことができた。 （課題） １　探究活動等で中高の連携を持つことはできたが、継続性や効果の面での充実を図ることができなかった。 ２　生徒たちの活躍する姿を積極的に発信することはできたが､､生徒募集につなげることはできなかった。 ３　タブレットの活用を含めたICTを有効活用して、深い学びの実践をさらにすすめていくことが必要である。 ４　教職員が子どもたちに豊かな教育をおこなうためにも働き方改革を進めていく必要がある。 ５　防災意識を高め、学校が生徒及び教職員にとって安心安全な教育の場であり続けるように努めていく。	**１　学力の向上と希望進路の実現** (1)　「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善を行い、確かな学力を育む。 (2)　ＩＣＴを効果的に活用した授業改善を推進する。 (3)　自ら目標を設定させ、主体的に学習に向かう姿勢を育むことにより、一人ひとりの希望進路実現を目指す。 **２　特色ある取組の充実** (1)　DXハイスクール事業によりデジタル人材の育成を図る。 (2)　普通科「みらい考」や文理科学科「みらい学」をより一層充実させ、社会や地域の課題を自分事として捉え、課題解決に向けて行動する姿勢を養う。 (3)　「スーパーサイエンスネットワーク京都」校として、理数系教育の充実を図る。 (4)　福高GLPやスマートAP等をとおして国際理解教育の機会を充実させグローバル人材の育成を図る。 (5)　医学進学･教員養成･国際理解･地域連携の各プログラムをはじめとするキャリア教育を充実させ、将来や社会への理解を深め、進路意識を高める。 **３　豊かな心を育む教育の実現** 人権意識を高め、自他を敬愛する心やいのちを大切にする心、公共性や社会貢献の精神を育み、共生社会に必要となる力を育成する。 **４　学校組織の改善と見直し** 教職員の資質･能力及び学校全体の教育力向上のため、中高各分掌･教科の在り方を含めた業務改善と効率化を図る。 **５　適正な学校運営と安心・安全な学校づくり** 全教職員が危機管理意識や防災意識を持ち、日々の点検に努め、適正な学校運営にあたる。学校防災や感染症対応など、生徒保護者･教職員が共通認識をもつことにより、危機管理体制を確立し、安心･安全な学校を作る。 **６　家庭・地域・関係機関との連携の強化** (1)　積極的な家庭連絡、必要に応じた家庭訪問を行うなど、家庭との連携を密にして信頼関係を築く。 (2)　地域連携やボランティア活動等をとおして、地域や社会の一員であることをことを自覚させ、使命感を持たせる。 **７　中高一貫教育の推進** 中高６年間を見据えて資質・能力を育成するとともに、中高一貫教育校のよさを活かして全体の活性化を図る。

<table>
<tr><th>評価領域</th><th>重点目標（取組の重点課題）</th><th>具　体　的　方　策</th><th colspan="2">評価</th><th>成果と課題</th></tr>
<tr><td rowspan="3">組織・運営</td><td>これからの社会で必要とされる資質、能力育成のための「主体的・対話的で深い学び」の実現及び理数教育の充実を図るとともに、ＢＹＯＤをはじめとするＩＣＴの効果的活用の組織的な取組を推進する。</td><td>みらい考やみらい学をはじめとする教育活動全般を通して「主体的・対話的で深い学び」を実践するとともに科学的な探究活動を通じて理数教育の充実を図る。また、ＤＸハイスクール事業を推進し、ＩＣＴの効果的な活用を推進する。
［主体的･対話的で深い学びを実践したという割合］
<table>
<tr><th>A</th><th>B</th><th>C</th><th>D</th></tr>
<tr><td>75%以上</td><td>74～60%</td><td>59～45%</td><td>44%以下</td></tr>
</table>
［ＩＣＴを授業等で積極的に活用したという割合］
<table>
<tr><th>A</th><th>B</th><th>C</th><th>D</th></tr>
<tr><td>75%以上</td><td>74～60%</td><td>59～45%</td><td>44%以下</td></tr>
</table></td><td>C
B</td><td>B</td><td rowspan="3">B</td><td rowspan="3">「主体的･対話的で深い学びを実践した」という割合は59%であり、総合的な探究の時間をはじめとする授業において様々な実践が行われているが更なる進化が必要と考えられる。
大学等との連携により探究活動がより深化し、発表会で優秀な成績を修める等、科学的な探究活動は大きく発展した。今後も理数教育の充実に向けて創意工夫をしていきたい。
「ＩＣＴを授業等で積極的に活用した」の割合が66%と昨年より上昇した。ＤＸハイスクールの取組は少しずつ進んでいるが教育活動の充実までには至っていない。
「自己の資質・能力が向上したと実感した」教職員の割合は78%と上昇した。一方､「分掌間や教科内の連携」についての割合は58%と昨年より下降した。学校評価アンケート「高校と附属中との協同活動」についてのプラス評価が保護者、生徒ともに30%台と低下した。中高合同の福高祭や今年度から始まった探究活動発表会等を充実感や達成感のあるものにしていくことが必要である。
学校評価アンケートの「福高は魅力的な学校か」に関するプラス評価は70%であった。生徒・保護者のニーズを捉えながら生徒たちが生き生きと学校生活をおくることができる改革を進めることが重要である。</td></tr>
<tr><td>生徒の確かな学力を育むための教職員の資質・能力の向上と、学校全体の教育力向上のために、中高の連携及び分掌や教科等の連携を密にし、教育活動に取り組む。</td><td>学習や生徒指導、学校運営等において、附属中を含む各教科や各分掌、個人間で連携を深め、教育活動及び業務の改善化を図るとともに、個々の教職員の資質・能力の向上に繋げる。
［分掌間や教科内の連携が充分に行えたという割合］
<table>
<tr><th>A</th><th>B</th><th>C</th><th>D</th></tr>
<tr><td>75%以上</td><td>74～60%</td><td>59～45%</td><td>44%以下</td></tr>
</table>
［学校評価アンケート『[附属中と福高のコラボ』に関するプラス評価の平均値］
<table>
<tr><th>A</th><th>B</th><th>C</th><th>D</th></tr>
<tr><td>75%以上</td><td>74～60%</td><td>59～45%</td><td>44%以下</td></tr>
</table></td><td>C
D</td><td>C</td></tr>
<tr><td>学校の魅力を高めるとともに、その魅力を生徒･保護者が実感できるものとする。また、その魅力を外部に効果的に発信する。</td><td>授業や課外活動、特色ある取組を更に充実させ生徒・保護者にとって充実感を感じるものとするとともに、その魅力を効果的に発信していく。
［学校評価アンケート『福高は魅力的な学校か』の評価のプラス評価の平均値］
<table>
<tr><th>A</th><th>B</th><th>C</th><th>D</th></tr>
<tr><td>75%以上</td><td>74～60%</td><td>59～45%</td><td>44%以下</td></tr>
</table></td><td colspan="2">B</td></tr>
</table>

<table>
<tr>
<td rowspan="3">教務部</td>
<td>学力向上に向け、授業改善と主体的な学習態度の育成に努める。</td>
<td>学力向上のため学年部と連携し、ガイダンスを積極的に実施する。指導実践を共有し、生徒の学習意欲を高める指導の工夫改善につなげる。
［授業アンケート中の自分は、自分の学習活動を振り返り、工夫や改善をしながら、粘り強くと取り組んでいる。授業の準備をし、意欲的に取り組めている。生徒の自己評価の平均］
<table>
<tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr>
<tr><td>3.5以上</td><td>3.0～3.4</td><td>2.5～2.9</td><td>2.4以下</td></tr>
</table></td>
<td>B</td>
<td rowspan="3"></td>
<td rowspan="3">新学習指導要領に対応するため、授業公開週間(春・秋)を通して授業改善を図った。また、年度初めにICTの研修機会を例年どおり設定した。学力向上のための生徒向けガイダンスについては昨年並みの実施とはならなかった。
授業アンケート中の質問①『授業の準備をし、意欲的に取り組めている』について生徒の自己評価は全体で４中3.45であった。(昨年3.36)
また同じく質問③『自分は、自分の学習活動を振り返り、工夫や改善をしながら、粘り強く取り組んでいる』について生徒の自己評価は3.46であった。(昨年3.31)
新課程完成年度を迎えたが、観点別評価の方法と検証、一人一台端末の活用について、引き続き各分掌、学年、教科、学校全体で共有し、研修する必要がある。</td>
</tr>
<tr>
<td>新学習指導要領が全学年に及ぶにあたり、引き続き評価の在り方、ＩＣＴ活用に向けての研修を進める。</td>
<td>学習指導の改善が生徒の学習意欲・学力向上に繋がるよう、校内での研修の機会を増やし、各教科間や分掌、学校全体で教育力向上を目指す。
［学校評価アンケート（生徒）の学力向上に関する取組の上位の割合］
<table>
<tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr>
<tr><td>８０%以上</td><td>７０%以上</td><td>６０%以上</td><td>６０%未満</td></tr>
</table></td>
<td>B</td>
</tr>
<tr>
<td>個に応じた指導を大切にし、単位不認定をなくす。</td>
<td>丁寧な学習方法の指導や個に応じた指導を進め、成績不振による単位不認定者をなくす。長期休業中の補充授業をより効果的な取組に改善する。
［成績不振による単位不認定者数］
<table>
<tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr>
<tr><td>0人</td><td>1～2人</td><td>3～4人</td><td>5人以上</td></tr>
</table></td>
<td>B</td>
</tr>
<tr>
<td>生徒指導部</td>
<td>安定した学校生活が進路実現につながるという観点に立ち、特に時間管理(遅刻指導)と社会的マナー意識(身だしなみ等)の向上を図る。</td>
<td>【遅刻指導】学年団と連携しながら多角的に指導することで、余裕をもった登校を促す。
【あいさつ指導】全教職員で協力し、身だしなみを含め、日頃のあいさつが積極的にできる生徒に育てる。
［学校評価アンケート『規範意識・挨拶・マナーは向上しているか』における『よくあてはまる・あてはまる』の生徒・保護者の平均値］
<table>
<tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr>
<tr><td>80%以上</td><td>79～60%</td><td>59～40%</td><td>39%以下</td></tr>
</table>
携帯情報端末、特にＳＮＳの利用などにおける</td>
<td>B</td>
<td>B</td>
<td></td>
<td>遅刻指導は学年部の協力のおかげで学年部長注意で収まる状況であった。
交通マナーの向上に関しては、ＰＴＡ生活安全部と行った登校指導や生活委員による朝の施錠運動、みらい考の交通マナー向上の取組等、昨年度と変わらず継続して活動することができた。保護者に対して本校での交通マナーに関する案内や報告が積極的にできておらず、アンケートでは「分からない」と答える方が多くなった。命に関わる大きな交通事故はなかったも</td>
</tr>
</table>

<table>
<tr><td rowspan="3"></td><td></td><td>情報モラルに関する規範意識を高める。
［ＨＲ掲示や放送、集会などを利用し情報モラルに関する啓発活動を行う回数］
<table><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr><tr><td>５回以上</td><td>４回</td><td>３回</td><td>２回以下</td></tr></table></td><td>C</td><td rowspan="3">B</td><td rowspan="3">の、今後も登下校時の交通安全には注意を払いたい。
生徒会活動について、今年度は生徒会執行部の活動が充実するように取り組んだ。また委員会活動を活発にし、それぞれの分野で積極的に活動することができた。学校内外を問わずに活動する姿が見られた。
学校祭は熱中症を考慮し４日間の開催とした。ボランティアに関しては、のべ９６人の生徒が参加した。

参考資料（数値は%）
規範意識等：生徒85.1/保護者71.7
通学マナー：生徒60.2/保護者55.1
部活動：生徒85.8/保護者71.4
ボランティア：生徒59.2/保護者35.3
学校行事：生徒78.7/保護者81.7
（部活・ボラ・行事の平均68.7）</td></tr>
<tr><td>学校生活が安心、安全なものとなるよう、特に交通安全について意識の向上を図る。</td><td>交通事故を防止し、交通マナーの向上を進める啓発活動を継続的に行う。
［学校評価アンケート『通学マナーはよいか』における生徒・保護者の平均値］
<table><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr><tr><td>80%以上</td><td>79～60%</td><td>59～50%</td><td>49%以下</td></tr></table></td><td>B</td></tr>
<tr><td>「５Ｋ力」の育成のため、特別活動（生徒会活動・部活動・ボランティア活動）の活性化を図り、将来、地域社会を支える自覚と創造力を兼ね備えた使命感を持たせる。</td><td>生徒会執行部の活動を活発化させ、生徒が中心となる生徒会活動(特に福高祭)を充実させる。
多くの生徒がボランティアに参加できる機会を増やす。
［学校評価アンケート『部活動・ボランティア・学校行事の充実度』における生徒・保護者の平均値］
<table><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr><tr><td>80%以上</td><td>79～60%</td><td>59～40%</td><td>39%以下</td></tr></table></td><td>C</td></tr>
<tr><td rowspan="2">進路指導部</td><td>生徒が希望進路の実現に向けて前向きな姿勢で歩み、自ら考え、行動する力を育てられるような進路指導を行う。</td><td>第３学年部や教科担当者との連携を密にして生徒の希望進路実現を図る。
〔第一志望学部や学科への進学率〕
<table><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr><tr><td>90%以上</td><td>89～75%</td><td>74～60%</td><td>60%未満</td></tr></table></td><td>A</td><td rowspan="2">A</td><td rowspan="2">第３学年部と密に連携をとり、３年生の教科担当者だけではなく、小論文・面接指導など、学校全体で生徒一人一人に対応した進路指導を進めることができた。進路希望調査（４月）で志望した第一志望学部・学科への進学率は90.1%であった。今後も生徒の進路実現に寄り添う支援を発展的に続けてきたい。
希望進路未定の生徒は11月段階で対４月比、高校１年生で６人から３人（2.9%→1.5%）、高校２年生で４人から０人（1.9%→０%）となり、11月段階の未定者は計３人であった（0.7%）。４月以降多くの生徒が未定から</td></tr>
<tr><td>１、２年生の進路意識を向上させる。</td><td>夢を抱いて頑張る生徒を育成する。
［11月実施の１・２年生進路希望調査で、未定と回答する生徒の割合］
<table><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr><tr><td>0～3%</td><td>3%～5%</td><td>5%～7%</td><td>7%以上</td></tr></table></td><td>A</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>自分の進路を見据えることができたと言える。今後は主体的な進路選択を一層サポートできる体制づくりに努めていきたい。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">保健部</td><td>生徒が健やかで安心・安全な学校生活を送ることができるよう、自らの健康や安全に対する意識の向上を図る。</td><td>生徒が健康で安全な学校生活を送ることができるよう、病気や怪我の予防に関する取組を積極的に行う。特に、メンタルヘルスに関する支援の充実、運動時及び部活動時の災害防止に努める。
定期的に「ほけんだより」、「安全だより」を発行（配信）し、健康や安全に関する注意喚起を行う。
健康診断結果に基づく要治療・再検生徒の受診率の向上を目指す。
［安全だよりの発行（配信）回数］<table><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr><tr><td>８回以上</td><td>６・７回</td><td>４・５回</td><td>３回以下</td></tr></table></td><td>B</td><td rowspan="2">B</td><td rowspan="2">学年部や関係機関との連携を密にして情報を共有し、メンタルヘルスに関する支援を適切に行うことができた。
生徒の心と体の健康に関する情報、学校行事や時事ニュースに関わる内容を中心に「ほけんだより」「安全だより」を発行し、病気や怪我の予防、通勤時の災害防止に努めた。
［ほけんだよりの発行回数］19回
［安全だよりの発行回数］６回

健康診断結果に基づく受診率は全体で23.8％であり、受診率の向上を目指せるよう方策を考えたい。
保健委員は、集積所当番の他、冷水機の清掃、施設・設備の安全点検、掃除道具の確認、事故災害件数のチェック、教室のCO2濃度の測定や室温チェックなど、年間をとおして積極的に活動した。</td></tr>
<tr><td>環境教育の充実を図り、校内美化に対する意識を高め、学習環境作りに努める。</td><td>校内の清掃を確実に行うとともに、校内美化に努める。保健委員による校内の冷水機の清掃を定期的に行う。
教室内環境に関心を持ち、感染症予防も含め換気の励行に努める。
CO_2モニターを用いた教室内の空気検査を実施する。
［保健委員の取組の数］<table><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr><tr><td>８回以上</td><td>６・７回</td><td>４・５回</td><td>３回以下</td></tr></table></td><td>A</td></tr>
<tr><td rowspan="2">人権教育部</td><td>様々な人権問題についての正しい理解や認識を深め、人権尊重の実践的態度を養う。</td><td>学年部や他分掌との連携を深め、人権学習の教材や指導方法の改善に努める。
［学校評価アンケート
生徒全員の人権学習に対するプラス評価平均］<table><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr><tr><td>90％以上</td><td>80％以上</td><td>75％以上</td><td>75％未満</td></tr></table></td><td>A</td><td rowspan="2">A</td><td rowspan="2">学校評価アンケートの高校全学年のプラス評価平均は、92.8％であった。
人権学習は各学期に１回行い、人権教育講演会（ワークショップを含む）は、各学年１～２回ずつ第２体育館で行った。事後アンケートの中で「とてもよかった」、「よかった」の肯定的な評価は、１年 性の多様性90.</td></tr>
<tr><td>各種援護制度の周知と活用を</td><td>援護制度について、広報や説明会を充実させる。</td><td></td></tr>
</table>

<table>
<tr><td rowspan="2"></td><td>図り、就・修学の保障に努める。</td><td>［さくら連絡網の活用と説明会の実施］
<table><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr><tr><td>20回以上</td><td>19～15回</td><td>14～10回</td><td>９回以下</td></tr></table></td><td>B</td><td rowspan="2"></td><td rowspan="2">6%、障がい者支援98.5%、２年 子どもの人権94.7%、３年 デートＤＶ防止99.7%、同和問題84.7%であった。１年生では、今年度から性の多様性に関する講演会を実施することができた。
さくら連絡網を活用した各種援護制度の広報と説明会は、計16回行うことができた。
教職員人権研修については、計５回の人権教育講演会と、８月実施の教職員同和問題研修会、職員会議での伝達研修により充実させることができた。</td></tr>
<tr><td>教職員の人権意識の高揚を図り、指導力の向上に努める。</td><td>教職員人権研修を充実させ、教職員の指導力の向上を図る。
［教職員人権研修の実施］
<table><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr><tr><td>５回以上</td><td>４～３回</td><td>２～１回</td><td>０回</td></tr></table></td><td>A</td></tr>
<tr><td rowspan="2">総務企画部</td><td rowspan="2">本校の特色ある取組や、生徒の充実した学校生活の様子を地域の方や中学生、その保護者等に正しく知ってもらえるよう広報誌(福高だより、学校案内)やホームページ、インスタグラムによる情報発信、各種説明会を工夫し、実施する。また本校生徒・保護者に対しても同様に本校の取組等をこれまで以上に知ってもらうようホームページ、インスタグラム等の更新に努める。</td><td>在校生とその保護者に本校の活動の様子をよりよく知ってもらえるよう、分掌内外の連携を強化し、ホームページ等を媒体に積極的に情報発信することで広報に関する満足度を高める。
［学校評価アンケート「ホームページ等 広報」におけるプラス評価の割合(全学年保護者の平均値)］
<table><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr><tr><td>75%以上</td><td>65%以上</td><td>55%以上</td><td>55%未満</td></tr></table></td><td>C</td><td rowspan="2">B</td><td rowspan="2">B</td><td rowspan="2">ホームページ、インスタグラム、さくら連絡網を利用して、昨年よりも多く発信をしたが、プラス評価が64.8であり、昨年（76.1）から大きく数値を落とした。特に１年３年の落ち込みが極端であり、その原因を見つけ早急に対処したい。
今年度は生徒募集について、文理科学科の受検生増加に絞り、土曜講座の見学会と個別相談会を夏冬と２回実施し、合計約100名の生徒と保護者に来ていただいた。また、文理科学科のポスターを作成し近隣中学校へ説明と配付をお願いした。本校の魅力を知ってもらうための取組を引き続き継続したい。</td></tr>
<tr><td>ホームページや広報誌(福高だより)、中学生対象の説明会等の広報に関わる様々な取組の内容をより充実させることで、本校の魅力を正しく知ってもらえるよう努め、本校全体の志願者の増加を目指す。
［本校の取組を外部に広報する機会］
<table><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr><tr><td>30回以上</td><td>20回以上</td><td>15回以上</td><td>15回未満</td></tr></table></td><td>B</td></tr>
<tr><td>みらい
探究部</td><td>普通科の総合的な探究の時間「みらい考」について、学習計画、探究のサイクルを回し、「課題解決実践」を円滑に進め、その内容が進路実現に繋がる取組</td><td>探究活動を通して、生徒に新しい価値を見つけ生み出す感性と力を付け、好奇心と行動力の向上をはかる。
【自らの進路実現に向け、役立つ学びを能動的に得ることが出来たと感じた人数の割合】</td><td>A</td><td></td><td></td><td>みらい考において、進路探究ではキャリア学習を活用した探究型学習を行った。課題探究では「地域活性化」・「福高活性化」をキーワードとして課題解決に向けた探究活動を行</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td rowspan="3"></td><td>とする。</td><td>
<table>
<tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr>
<tr><td>75%以上</td><td>65%以上</td><td>60%以上</td><td>60%未満</td></tr>
</table>
</td><td></td><td rowspan="2">A</td><td rowspan="3">A</td><td rowspan="3">った。みらい考Ⅰでは解決のための提案を行ったが、みらい考Ⅱでは、提案を元により具体化して課題解決実践に繋げた。
みらい学Ⅰ、みらい学Ⅱともに、大学での研究活動を見据え、理系（MIRAI SCIENCE）文系（MIRAI ARTS）に分け研究を進める形に変更することで、理系・文系の特色に沿った指導を行うことができた。また、研究アドバイザーとして、大学や研究機関の方々に就任いただき、生徒達に将来の研究活動を見据えたサポートやアドバイスをいただける体制を整えた。
サイエンスガーデンや、サイエンスフェスタなど、SSNの取組にも積極的に参加した。土曜講座についても4回実施し、44講座を開設、のべ275名の生徒（附属中生徒含む）が参加し、様々な学びを提供することができた。
今年度より探究発表会「F3！」を学校全体の探究活動を深める日として位置づけ実施した。</td></tr>
<tr><td>文理科学科の総合的な探究の時間「みらい学」での研究活動の充実を図り、各研究活動を通して、時間管理能力や批判的思考力など研究活動に必要な力を向上させ、研究内容の充実・深化をはかる。</td><td>研究活動を計画的にすすめ、内容を深めるために関係者や有識者と効果的につながり、科学的に思考・吟味し活用する力を育成する。
【外部の研究機関等と繋がり、指導助言を受ける機会の設定数（オンライン会議含む）】
<table>
<tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr>
<tr><td>10以上</td><td>７以上</td><td>５以上</td><td>５未満</td></tr>
</table>
</td><td>A</td></tr>
<tr><td>みらい学・みらい考、土曜講座、探究の日などの取組を通して、学校全体の探究活動の活性化を図る。</td><td>各取組について、総合的な探究の時間を軸に教科や分掌と連携して計画・実施し、教員が能動的に探究活動に関わることができる体制を整える。
【学校全体の探究活動が昨年度と比べ活性化したと感じる教員の割合】
<table>
<tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr>
<tr><td>80%以上</td><td>70%以上</td><td>65%以上</td><td>65%未満</td></tr>
</table>
</td><td>A</td></tr>
<tr><td>図書
視聴覚部</td><td>読書活動を推進し、５つの力を基盤とした「知識に裏付けされた判断力」「豊かな表現力」「感性を磨く力」を育成する。</td><td>学年、分掌、教科と連携し、図書館活用の機会を増やすとともに、活用内容の充実を図る。
〔授業での図書館活用回数〕
<table>
<tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr>
<tr><td>30回以上</td><td>29～20回</td><td>19～10回</td><td>9回以下</td></tr>
</table>
</td><td>C</td><td rowspan="2"></td><td rowspan="2">授業での図書館利用が、探究活動以外では、昨年度の20回から15回に減少し、教科数は昨年同様２教科にとどまった。中高の探究活動では計101回の活用があり、必要な資料を提示するなど、学校図書館としての役割を果たすことができた。より多くの授業で図書館が活用できるように、その方法を模索していく必要がある。
朝読書については生徒の読書機会を確保し、学習に集中して取り組む</td></tr>
<tr><td>ＰＴＡ活動を推進し、保護者や府民の学校理解につなげる。</td><td>ＰＴＡ活動が円滑に運営されるよう、事務局としての役割を果たす。学校行事やＰＴＡ活動について「さくら連絡網」を活用した、継続的かつ安定的な情報発信を行うとともに、機能充実に努める。
〔保護者対象学校評価アンケートのＰＴＡ活動に対す</td><td>C</td></tr>
</table>

<table>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td>るプラス評価〕
<table><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr><tr><td>80%以上</td><td>79～70%</td><td>69～60%</td><td>60%未満</td></tr></table></td>
<td></td>
<td>C</td>
<td>姿勢を確立させるという点で大きな効果があると言える。
ＰＴＡ活動については、会員の皆様の御協力のもと、朝の交通立ち番や進路講演会の運営、校内の安全点検、福高祭での売店や飲料の配布など、各専門部の事業を予定どおり実施することができた。一方アンケートの回答で「わからない」が多いことから家庭への発信が必要と考えられる。
〔ＰＴＡ活動に対するプラス評価 62.0%〕</td>
</tr>
<tr>
<td rowspan="3">第１学年部</td>
<td>学習に励む態度を育み、自らの可能性を拡げさせる（５Ｋ力）</td>
<td>受け身ではなく、積極的に学習に取り組ませる。
面談を重視し、個々に応じた学習習慣を模索・確立させ、進路に対する意識を高めさせる。
教室の美化に努め学習環境を整えさせる。
〔１年生全体の評定平均値の平均〕
<table><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr><tr><td>4.2以上</td><td>4.1～3.8</td><td>3.7～3.4</td><td>3.3以下</td></tr></table>〔入学時に比べて学習に取り組む姿勢が向上したと考える生徒の割合〕
<table><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr><tr><td>80%以上</td><td>79%～65%</td><td>64%～50%</td><td>49%以下</td></tr></table>※上記２つを総合的に判断して評価する。</td>
<td>B</td>
<td rowspan="3">B</td>
<td rowspan="3">面談を重視し、個々の生徒の実態に応じて、生徒が前向きに高校生活を送ることができるように助言を与えることができた。学年全体として、優しく素直という印象を強く受け、学年レクリエーション等、学年全体で行う行事も良い雰囲気で行うことができた。概ね真面目に落ち着いた学校生活を送ることができており、部活動に積極的に取り組み、部活動との両立に励んでいる生徒も多い。
「学習に取り組む姿勢が、中学生の時に比べて向上した」と回答した生徒は83.5%で、学習習慣は一定身につきつつあると判断できる。しかし、受け身的に課題に取り組んでいる所もあり、「自分の学習を振り返り、改善しながら、身につくまで粘り強く取り組む」という主体的な学習に繋げていくことが今後の課題である。
「基本的な生活習慣や日常的なマナーを持って行動できた」と回答した生徒は93.0%である。しかし、遅刻や挨拶など積極性が求められる生活習慣、マナーなどの向上が求められる。</td>
</tr>
<tr>
<td>自ら考えて行動する態度を育み、より良い生活習慣を身につけさせ充実した高校生活に繋げさせる（５Ｋ力）</td>
<td>基本的な生活習慣や挨拶、日常的なマナーを身につけさせる。
面談を重視し、自らの高校生活の振り返りと改善をさせる。
様々な活動への積極的な参加を促す。
〔基本的な生活習慣や日常的なマナーが身についたと考える生徒の割合〕
<table><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr><tr><td>80%以上</td><td>79%～65%</td><td>64%～50%</td><td>49%以下</td></tr></table>※数値は目安であり普段の様子も踏まえて評価する。</td>
<td>B</td>
</tr>
<tr>
<td>他者を思いやる心を持って行</td>
<td>常に相手の気持ちを考えて、他者を思いやる行動</td>
<td></td>
</tr>
</table>

<table>
<tr>
<td></td>
<td>動する態度を育む（５Ｋ力）</td>
<td>を取らせる。
　学校行事やホームルーム活動に積極的に参加させ、集団の中での自分の役割を果たさせる。
〔学校生活の様々な場面で、他者を思いやる行動を取れたと考える生徒の割合〕
<table><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr><tr><td>80%以上</td><td>79%～65%</td><td>64%～50%</td><td>49%以下</td></tr></table>※数値は目安であり普段の様子も踏まえて評価する。</td>
<td>A</td>
<td></td>
<td>「学校生活の様々な場面で、他者を思いやる行動ができた」と回答した生徒は96.5%である。より一層、相手の立場に立って考え行動することができる態度を養っていきたい。</td>
</tr>
<tr>
<td rowspan="3">第２学年部</td>
<td>　思考力・判断力・表現力等の育成に向けて、基礎的な学力を定着させる（感じる力、考える力）</td>
<td>　個人面談などを通じて、授業と家庭学習のバランスがとれた学習習慣を確立するよう指導する。
　苦手教科の克服に取り組むよう助言、指導する。
〔生徒一人あたりの年間面談＋進路行事実施回数〕
<table><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr><tr><td>８回以上</td><td>６～７回</td><td>４～５回</td><td>３回以下</td></tr></table>〔学習サイクルの確立や苦手科目克服に取り組めた生徒の割合〕
<table><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr><tr><td>80%以上</td><td>79～60%</td><td>59～40%</td><td>39%以下</td></tr></table></td>
<td>B</td>
<td rowspan="3">B</td>
<td rowspan="3">　生徒一人あたりの年間面談回数と進路行事実施回数は８回をゆうに超えたため評価はＡとした。一方で学習サイクルが確立できたと考えている生徒は62％、苦手科目に積極的に取り組めたと感じている生徒は52％であったため、評価をＣとし、総合としてＢとした。
　進路実現に向けて具体的に行動できた生徒の割合は、96％が何らかの形で進路研究の実践をしたため、Ａとした。担任は機会を捉えた面談や、学級通信を通じて進路意識を高めた。「学校の進路指導に対して満足度が１年時より下がった」と考える生徒は3％にとどまり、進路指導に対して肯定的に考えている生徒が多いと思われる。
　88％の生徒が「学校生活において、他者と積極的に協働できた」と考えており、Ａと評価した。ただ、挨拶については自ら積極的にできた生徒は36％にとどまり、挨拶されたら返す生徒が64％である。集団としてさらに成長できるように指導を継続する必要がある。
　４つの評価指標のなかでＣが１つあったので、全体評価はＢとした。</td>
</tr>
<tr>
<td>自己理解を深め、自らの目標を立て、進路実現に向けて主体的に行動させる（行動する力、向上する力）</td>
<td>　個人面談、進路検討会を充実させ、進路意識の高揚をはかる。
　オープンキャンパスや学校説明会への積極的参加を促し、進路目標を具体化させる。
〔進路実現に向けて具体的に行動できた生徒の割合〕
<table><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr><tr><td>80%以上</td><td>79～60%</td><td>59～40%</td><td>39%以下</td></tr></table></td>
<td>A</td>
</tr>
<tr>
<td>他人を思いやり、協働する態度を育てる（関わる力）</td>
<td>　挨拶の励行やマナー意識の向上を図り、他者と円滑なコミュニケーションをとり、協働できる集団作りをする。
　学校行事や、クラスでの活動に積極的に参加させ、集団の中での自分の役割を見つけさせる。
〔学校生活の様々な場面で他者と協働して取り組んだ生徒の割合〕
<table><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr><tr><td>80%以上</td><td>79～60%</td><td>59～40%</td><td>39%以下</td></tr></table></td>
<td>A</td>
</tr>
</table>

<table>
<tr>
<td rowspan="3">第３学年部</td>
<td>思考力・判断力・表現力等の育成に向けて、基礎的な学力を定着させる（感じる力、考える力）</td>
<td>自己の課題を認識させ、短期目標を設定させるなどして、苦手科目の克服に取り組ませる。
模擬試験での得点向上を目指した学習計画を立てさせ、入試に向けての意識を高めさせる。
〔学年全体の６月進研共通テ模試平均偏差値(英・数・国)〕
<table>
<tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr>
<tr><td>55.0以上</td><td>52.5以上</td><td>50.0以上</td><td>50.0未満</td></tr>
</table>
〔苦手科目の克服に取り組んでいる生徒の割合〕
<table>
<tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr>
<tr><td>90%以上</td><td>89%～70%</td><td>69%～60%</td><td>60%未満</td></tr>
</table>
※評価の際は、数値目標だけでなく、生徒の様子を観察して、総合的に評価する。</td>
<td>A</td>
<td rowspan="3">A</td>
<td rowspan="3">個人面談を通して、自己の課題を確認させ、次の考査や模試に向けた学習を促すことができた。生徒の多くは、苦手科目を意識し、克服の手立てを試行錯誤した。「苦手科目の克服に取り組んでいる生徒」の割合は94％であり、昨年度の74％より大きく向上した。６月進研共通テスト模試の国数英総合の平均偏差値は、53.6であった。
毎日の面談に加え、模試返却の面談及び進路に関する相談等、数多くの面談を行うことができた。進路指導部との連携を密にし、情報を共有し、進路検討会の内容を踏まえた面談を行うことで、生徒や保護者の進路意識を高めることができた。第一志望学部や学科への進学率は90.1％であった。
学校行事や部活動などの場で、最高学年としての生徒それぞれの役割を見つけさせるために、個々に応じた適切な助言を行った。生徒は、様々な場面で上級生としての自覚を持ち、リーダー的立場でない生徒も集団の中での自己という認識を持つことができた。「学校生活の諸活動の中で、自己の役割を見つけ、取り組むことができた生徒」の割合は74％と昨年より３％増にとどまったが、そのうちの152人（90％）は「十分に取り組むことができた」と答えている。</td>
</tr>
<tr>
<td>進路目標を明確に持たせ、希望進路の実現に向けて主体的・計画的に行動させる（行動する力、向上する力）</td>
<td>生徒との面談に重点を置き、進路意識の高揚をはかる。
関係分掌や教科担当者との連携を密にして、進路検討会を充実し、生徒の希望進路実現を図る。
〔第一志望学部や学科への進学率〕
<table>
<tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr>
<tr><td>90%以上</td><td>89～75%</td><td>74～60%</td><td>60%未満</td></tr>
</table>
※評価の際は、数値目標だけでなく、生徒の様子を観察して、総合的に評価する。</td>
<td>A</td>
</tr>
<tr>
<td>他人を思いやり、協働する態度を育てる（関わる力）</td>
<td>学校行事や、クラスでの活動、部活動に積極的に参加させ、集団の中での自分の役割を見つけさせる。
常に相手の気持ちを考えて、他者に優しい行動を取らせる。
〔学校生活の諸活動の中で、自己の役割を見つけ、取り組むことができた生徒の割合〕
<table>
<tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr>
<tr><td>90%以上</td><td>89%～70%</td><td>69%～50%</td><td>50%未満</td></tr>
</table>
※評価の際は、数値目標だけでなく、生徒の様子を観察して、総合的に評価する。</td>
<td>B</td>
</tr>
<tr>
<td>事務部</td>
<td>安心・安全な学校にするため、施設・設備の維持管理を徹底する。</td>
<td>危機管理意識を常に持ち、危険箇所の早期発見・早期改修に努める。
［危険箇所に対する改修率］
<table>
<tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr>
<tr><td>90％以上</td><td>89～70％</td><td>69～50％</td><td>50％未満</td></tr>
</table></td>
<td>B</td>
<td></td>
<td>安心・安全な学校の維持に向け、危険箇所の早期発見に努め、今年度は、特に熱中症対策が求められる中、岳南グラウンドにクーリングルームを設置した。</td>
</tr>
</table>

<table>
<tr><td rowspan="3"></td><td></td><td></td><td></td><td rowspan="3">B</td><td rowspan="3">運営費の執行に当たっては、光熱水費や物価の高騰の中、費用対効果を見極めた執行に努めた。
事務室は学校の窓口であり、常に丁寧な対応を心掛け、学校運営に努めた。
今後も一層予算確保に努め安心安全な学校づくりに努めたい。</td></tr>
<tr><td>学校経営方針を推進するため、各分掌・教科等と連携し、効果的な予算執行を行う。</td><td>各分掌・教科等と連携を密に、教育的効果のある予算執行を行う。学校経営を推進し、本校教育に即した予算計画の立案、確実な執行に努める。
［教科・分掌の予算執行満足度］<table><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr><tr><td>90％以上</td><td>89～70％</td><td>69～50％</td><td>50％未満</td></tr></table></td><td>B</td></tr>
<tr><td>丁寧、的確及び迅速な窓口業務・電話対応を行う。</td><td>府民・保護者との窓口になる対応を、丁寧かつ的確、迅速に行い、円滑な学校運営に努める。</td><td>B</td></tr>
<tr><td rowspan="2">国語科</td><td>新学習指導要領や観点別評価への対応に取り組むとともに、ICTの授業での有効活用に努める。</td><td>教科内での授業研究や、学校外での研修会への参加を積極的に行い、次の事項を推進する。
①タブレット等ICT機器の、授業での有効活用
②新学習指導要領に即した教科指導力の向上
③観点別評価への対応
〔研修会等への年間参加回数〕（悉皆研修を除く）<table><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr><tr><td>20回以上</td><td>14回以上</td><td>８回以上</td><td>８回未満</td></tr></table></td><td>A</td><td rowspan="2">A</td><td rowspan="2">ICT機器について、演習問題や学習課題の配信、演習等の解答解説、授業の振り返りなどの場面で活用して、生徒の読解力や学習意欲を向上させた。ただし、使用する方法やアプリ等は限定的である。今後も、効果的なタブレット等の活用方法の模索を要する。
新学習指導要領や観点別評価が全学年で実施されるようになり、適切に運用できるように学年担当者間をはじめ教科全体で協議し、教科指導力の向上につなげた。なお、第３観点の評価については、引き続き検討を要する。
毎週、または定期的に漢字テストや古語単語テスト等を実施して「知識・技能」の定着を図った。第１観点の評価点も良好である。３年生については、新学習指導要領対応の「大学入学共通テスト」の初年度であった。新第３問をはじめ、複数テキストや小問の形式など、最近の動向を踏まえての指導を行った。また、多様な進路選択にあわせた個別指導を行うともに、「にじゼミ」を講義形式に変更して持続可能な指導方法を模索した。</td></tr>
<tr><td>生徒の言語文化に対する関心を深め、「知識・技能」の定着を図る。</td><td>「知識・技能」の定着を目指して、小テストや考査等に意欲的に取り組ませる。
〔「現代の国語」「論理国語・文学国語・現代文芸」における、第１観点の３学年の平均〕<table><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr><tr><td>70％以上</td><td>60％以上</td><td>50％以上</td><td>50％未満</td></tr></table>〔「言語文化」「古典探究・古典文学研究」における、第１観点の３学年の平均〕<table><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr><tr><td>60％以上</td><td>50％以上</td><td>40％以上</td><td>40％未満</td></tr></table></td><td>A
B</td></tr>
<tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>

<table>
<tr>
<td rowspan="2">地歴公民科</td>
<td>生徒個々にあわせた希望進路を実現するために必要とされる学力を向上させ、社会的役割の自覚とともに、自立した学習習慣を確立することに努める。</td>
<td>学習事項の基礎基本を確実に定着させ、生徒の学力の向上に努める。
［大学入学共通テスト平均の対全国平均値(科目利用生徒)］
<table>
<tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr>
<tr><td>＋５点以上</td><td>＋４点以上</td><td>＋３点以上</td><td>＋３点未満</td></tr>
</table>
</td>
<td>C</td>
<td rowspan="2">B</td>
<td rowspan="4">A</td>
<td rowspan="4">2025年度大学入学共通テストでは、全国平均値（中間発表時点）から、日本史探究＋7.4、世界史探究＋0.9、地理探究＋2.0、倫理-1.06、政経＋8.0であり、地歴公民科全体の平均値は＋3.59であった。
発展的課題発見授業は、土曜講座や中高コラボ授業の時間等を活用し、普段と異なる授業形態で実施できた。
「主体的・対話的で深い学び」のための効果的な指導方法確立に向けての研究授業、研究協議は、６月と11月を中心に合わせて６回実施できた。さらなる研鑽を深めていきたい。
授業アンケート中の「先生の教え方に工夫が感じられ自分自身の理解が深められている」については、自己評価平均が3.53であった。</td>
</tr>
<tr>
<td>生徒が主体的に物事を考察し、課題を発見できる教育を進める。
［発展的な課題発見授業・講演会等の実施数］
<table>
<tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr>
<tr><td>５回以上</td><td>４回</td><td>３回</td><td>２回以下</td></tr>
</table>
</td>
<td>A</td>
</tr>
<tr>
<td>生徒の学習意欲を高めるため、教科内で連携をとり、各人が「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業を実施できるように努める。また、観点別評価における「指導と評価の一体化」を推進する。</td>
<td>「主体的・対話的で深い学び」のための効果的な指導方法の確立に向けて研究授業を実施し、研究協議を行う。
［テーマに関する研究授業と研究協議の実施回数］
<table>
<tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr>
<tr><td>６回以上</td><td>５回</td><td>４回</td><td>３回以下</td></tr>
</table>
</td>
<td>A</td>
<td rowspan="2">A</td>
</tr>
<tr>
<td>［授業アンケートの中の「先生の教え方に工夫が感じられ、自分自身の理解が深められている」に対する生徒の自己評価の平均］
<table>
<tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr>
<tr><td>3.3以上</td><td>3.3～3.1</td><td>3.0～2.8</td><td>2.8以下</td></tr>
</table>
</td>
<td>A</td>
</tr>
<tr>
<td>数学科</td>
<td>主体的な態度で粘り強く学習に励む生徒を育成し、希望進路に対応できる学力を養成する。</td>
<td>〈１年生〉　学習状況の把握と丁寧な指導を行い基礎学力の定着を図る。
〔全員模試の平均偏差値の差(１月－７月)〕
<table>
<tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr>
<tr><td>２以上</td><td>２～０</td><td>０～－３</td><td>－３未満</td></tr>
</table>
</td>
<td>C</td>
<td rowspan="2">B</td>
<td rowspan="2">B</td>
<td rowspan="2">〈1年生〉
教科書を中心にした基礎・基本問題に加えて、参考書を利用した発展的な問題も扱い、学習を進めた。課題や授業での生徒の取り組み方などで個々の学習状況や理解度を把握し、基礎学力の定着に向けて取り組んだ。
〈２年生〉
模試の平均偏差値の差(１年11月-２年11月)は-0.1であり、Ｂ評価だった。各講座の学習状況を把握し、基礎学力の定着や発展的な問題も扱った。主体</td>
</tr>
<tr>
<td>〈２年生〉　学習方法を指導することにより、個々の学習スタイルを確立させ、主体的に学習に励む生徒を育てる。
〔全員模試の平均偏差値の差(２年11月－１年11月)〕
<table>
<tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr>
<tr><td>０以上</td><td>０～-１</td><td>-１～-３</td><td>－３未満</td></tr>
</table>
</td>
<td>B</td>
</tr>
</table>

<table>
<tr><td rowspan="2"></td><td></td><td>〈３年生〉　日々の授業に加え、共通テスト対策演習やにじゼミ等により、希望進路実現に必要となる学力を充実させる。
〔大学入学共通テスト 数学ＩＡ 対全国平均〕
<table><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr><tr><td>４点以上</td><td>４～２点</td><td>２～０点</td><td>０点未満</td></tr></table></td><td>A</td><td rowspan="2"></td><td rowspan="2">的に学習を進め、力を伸ばしている生徒もいたが、一方で数学を苦手とし学習スタイルが確立できていない生徒もいた。生徒個人の力を確認しながら柔軟に対応していく必要がある。
〈３年生〉
数学Ⅲの履修を１学期に終えることができたため、２学期以降の日々の授業において、入試過去問演習や共通テスト演習の時間を多くとることができた。大学入学共通テスト数学ＩＡの対全国平均は＋9.6 点（本校63.3-中間集計53.7）</td></tr>
<tr><td>学習意欲を高める指導の工夫と改善を推進する。</td><td>ＩＣＴの活用についての交流を図る。
<table><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr><tr><td>図れた</td><td>まあまあ図れた</td><td>あまり図れなかった</td><td>図れなかった</td></tr></table></td><td>B</td></tr>
<tr><td rowspan="3">理科</td><td rowspan="2">生徒の希望進路実現に向け、基礎学力の定着と論理的な思考力・考察力・分析力の向上</td><td>授業や個別指導を通して丁寧な学習指導を行い、基礎学力の定着を図る。また、講習や二次ゼミを通して、大学入試に対応しうる学力を養う。
［大学入学共通テストの対全国平均点］
<table><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr><tr><td>７点以上</td><td>５点以上</td><td>３点以上</td><td>平均</td></tr></table></td><td>B</td><td rowspan="3">A</td><td rowspan="3">各科目で授業進度を確保しながら、定期的に小テストや単元テストを実施し、基礎学力の定着を図った。本校３年生が受験した大学入試共通テストの平均点は以下のとおりであった。
物理66.9（59.1）化学54.7（45.5）
生物64.5（52.3）化学基礎28.9（27.1）
生物基礎32.7（31.5）（ ）は全国平均
主に文系生徒が受験した基礎科目で課題が残るものの、主に理系生徒が受験した各親科目で、全国平均を大きく上回る結果であり、学力向上に向けた取組の成果が得られた。
各授業担当者が積極的にICT機器を活用できた。教員側からの情報提供として、様々な自然現象の動画や問題解説の動画を配信したり、授業プリントやスライド資料などをオンライン上で配布した。また生徒からの情報収集として、実験レポートをオンライン上のフォームで作成させたり、アンケート機能を利用して授業のポートフォリオの作成を行った。また実験・観察を通した授業を積極的に行った。教員間で</td></tr>
<tr><td>教科指導及び情報管理等で情報端末を積極的に活用し、生徒の情報リテラシーを高める。積極的に情報共有を行い、ICT機器の有効な活用方法を模索し、授業改善に務める。
［学習用端末を活用した授業の割合］
<table><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr><tr><td>70%以上</td><td>50%以上</td><td>30%以上</td><td>30%未満</td></tr></table></td><td>A</td></tr>
<tr><td>対話的・体験的な実験などの科学体験の充実と外部施設との連携による探究活動の実施</td><td>物理・化学・生物の各領域における授業で生徒が主体となる実験を行い、生徒の主体性・協調性・探究心を高める。また大学や研究機関等の外部機関と積極的に連携を図るとともに、全教員が探究活動に積極的に携わることで、探究内容の精度を向上させ、高度な研究を行う。またSSN事業である「サイエンスフェスタ」等の発表に向けてきめ細かい指導を行い、生徒の課題解決能力とプレゼンテーション能力を養う。</td><td>A</td></tr>
</table>

<table>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td>［年間を通して行った生徒実験の回数］
<table><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr><tr><td>６回以上</td><td>４回以上</td><td>３回以上</td><td>３回未満</td></tr></table></td>
<td></td>
<td></td>
<td>も共通の実験を行うなど連携をとりながら体験的な授業を増やすよう努めた。また、「サイエンスフェスタ」等の科学に関する行事への出展に向けて大学等の外部機関と連携しながら探究活動の指導を高いレベルで行った。</td>
</tr>
<tr>
<td rowspan="3">保健体育科</td>
<td>＜主体的に学習に取り組む態度の育成＞
体育授業や体育的行事により体力向上を目指すとともに、自身の体をどのように動かせば効率的にかつ技術的に向上するかを考え実践しようとする力を育成する。</td>
<td>体力の向上、身体技術の向上にむけて、自身の身のこなしや、他者との動きの違いに気づき、自身の課題解決への道筋を考え実践しようとする機会の多い授業を展開する。
［授業アンケート「自分の学習活動を振り返り、工夫や改善をしながら、粘り強く取り組んでいる」、「授業に工夫が感じられ、自分自身の理解が深められている」に対する生徒の自己評価の平均］
<table><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr><tr><td>3.5以上</td><td>3.0以上</td><td>2.5以上</td><td>2.4以下</td></tr></table></td>
<td>B</td>
<td rowspan="3">B</td>
<td rowspan="3">ペア、グループの活動を通して生徒間での相互評価や、課題に対するアドバイスなどが実践できた。また、個人でも成果と課題を振り返り、次につなげようとする姿勢を身に着けさせるように取り組んだ。
実施種目、実施時間数に応じて活動量と技術向上のバランスを考えながら授業を展開し、理解した授業内容を、ゲームなどのまとめの時間に活用できるように取り組んでいる。
（２学期授業評価アンケート「自分の学習活動…」3.38、「「授業に工夫が感じられ…」3.37）
授業方法の検討については、関連する国や府からの連絡事項や研究会などの資料を文書等で回覧し共有した。また、はじめ、中、終わりの時期に各担当間で指導方法や評価方法などを検討した。積極的にタブレットを活用し、効果的な方法を教科内で共有できたが、今後も継続してより効果的な方法を模索していく必要がある。（教科会議16回、担当間の検討９回）
両丹総体、学期末、学校祭前などで部活動集合を実施したり、清掃場所の確認や各種連絡など、折に触れて実施した。（キャプテン集合（運動部員集合時を含む）７回実施</td>
</tr>
<tr>
<td>＜新学習指導要領に即した授業改善＞
積極的にICTの活用するなど、効果的な授業方法を検討し「知識･技能」「思考力･判断力・表現力等」の育成を目指す。</td>
<td>ぞれぞれが行った改善点について科内共有し、目指す力の育成に効果的な授業方法について検討する。
［教科会議で授業改善について検討した回数（１年間）］
<table><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr><tr><td>21回以上</td><td>16～20回</td><td>11～15回</td><td>10回以下</td></tr></table></td>
<td>A</td>
</tr>
<tr>
<td>＜運動部活動の活性化＞
部活動を通して自己管理能力の育成を図るとともに、責任感、連帯感の涵養、好ましい人間関係の育成し、自己肯定感を高める。また、各部活動間の交流を推進し、積極的に物事に取り組む姿勢を学校全体に広げていく。</td>
<td>福知山高校運動部としての意識を高め、日常生活において挨拶や礼儀等を身に付けるなど、他の模範となる質の高い集団となるよう働きかける。
［キャプテン集合の回数］
<table><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr><tr><td>10回以上</td><td>７～９回</td><td>６～４回</td><td>４回以下</td></tr></table></td>
<td>B</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
</table>

<table>
<tr>
<td rowspan="3">芸術科</td>
<td rowspan="3">芸術に関わる幅広い活動を通し、生涯にわたり芸術を愛好する心情を育てると共に、感性を高め芸術の諸能力や技能を伸ばし、芸術文化に対しての理解を深め、豊かな情操を養う。</td>
<td>〈音楽〉音楽の幅広い活動を通して生涯にわたり音楽を愛好する心情と音楽・音楽文化と幅広く関わる資質・能力を育成する。
［授業アンケートで「分かった」「できた」と思うことがよくある生徒の割合］
<table>
<tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr>
<tr><td>90%以上</td><td>89～70%</td><td>69～50%</td><td>49%以下</td></tr>
</table></td>
<td>B</td>
<td rowspan="3">A</td>
<td rowspan="3">〈音楽〉ギターやハンドベル、鍵盤楽器などいろいろな楽器に触れ、様々な活動を行うことができた。課題は、音楽経験に差がある生徒それぞれに合った目標設定のしかたと、鑑賞活動の充実である。［授業アンケートで「分かった」「できた」と思うことがよくある生徒の割合］は87.5%。
〈美術〉様々な分野の活動に取り組むことにより、表現の幅を広げ、生徒の可能性を導くことができた。
作品を制作する中で、自分の考えや思いを言葉でまとめ、物の見方や考え方を深めることができた。また、他者の作品から感じ取る力や表現の意図を読み取る力にも繋げることができた。
〈書道〉グループワークや鑑賞の時間を設け、自ら気づくこと考えることを軸に授業を展開することができた。
また、個別指導により表現技術の向上に努め、作品制作の取組を充実した内容で行うことができた。</td>
</tr>
<tr>
<td>〈美術〉鑑賞・表現の授業において、見方や感じ方を深め生涯にわたり美術を愛好する心情を育てる。
［授業アンケートより、「分かった」「できた」と思うことがよくある生徒の割合］
<table>
<tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr>
<tr><td>90%以上</td><td>89～70%</td><td>69～50%</td><td>49%以下</td></tr>
</table></td>
<td>A</td>
</tr>
<tr>
<td>〈書道〉主体的・対話的で深い学びの中から、本校が目指す生徒像を目標に、生徒の育成が推進できるよう授業改善に努める。授業内容と指導方法の改善により生徒の達成感を高める取組を推進する。
［授業アンケートより、「分かった」「できた」と思うことがよくある生徒の割合］
<table>
<tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr>
<tr><td>90%以上</td><td>89～70%</td><td>69～50%</td><td>49%以下</td></tr>
</table></td>
<td>A</td>
</tr>
<tr>
<td rowspan="2">英語科</td>
<td>多様かつハイレベルな進路希望に対応できる基礎から応用までの幅広い学力を養成する。</td>
<td>家庭学習指導の徹底、課題への取組、模試の復習を通じて、学力の向上を図る。
［３年生共通テスト平均点の対全国平均値］
＊リーディング100点＋リスニング100点の計200点満点
<table>
<tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr>
<tr><td>+20 点以上</td><td>+19 ～ 10 点</td><td>+9 ~ 0 点</td><td>マイナス</td></tr>
</table></td>
<td>B</td>
<td rowspan="2">B</td>
<td rowspan="2">本校３年生共通テスト平均点はリーディング65.8点、リスニング66.9点であり、全国平均値をそれぞれ8,1点、6.0点上回ったためＢとした。
（例年になく多数の満点者がおり、二極化の傾向が顕著であった）
新学習指導要領に即した授業を行い、担当者間の連携を密にして評価を行った。公開授業を行い、研究協議でICT機器を効果的に利用した授業や指導について研修をすすめることができた。また、定期的な教科会議においても、授業実践やICT活用について研修を行った。</td>
</tr>
<tr>
<td>「主体的、対話的で深い学び」の視点に立ち、生徒の確かな学力を育むための授業改善に取り組む。</td>
<td>新学習指導要領に即した授業や評価を実践すると同時に、ICT機器を効果的に利用したより効果的な指導を実現するため、教科内で一致して研修を進める。
［新学習指導要領やICT活用に関する教科内研修の回数］
<table>
<tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr>
<tr><td>６回以上</td><td>５～４回</td><td>３～２回</td><td>１回以下</td></tr>
</table></td>
<td>B</td>
</tr>
</table>

<table>
<tr><td rowspan="2">家庭科</td><td rowspan="2">実践的・体験的な学習活動を通して、主体的に生活を創造する資質・能力を育成する指導の工夫改善を図る。</td><td>授業ごとのねらいを明確にし、実習等の実践的・体験的な活動や問題解決的な学習の充実を図り
福高の５Ｋ力がついたと実感できる授業を行う。
［授業アンケートにおいて、５Ｋ力がついたと答えた生徒の割合］
<table><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr><tr><td>80%以上</td><td>79～60%</td><td>59～50%</td><td>49%以下</td></tr></table></td><td>A</td><td rowspan="2">A</td><td rowspan="2">毎回の授業で振り返りやアンケートができた訳ではないが、実習は基本的にグループで行うため、関わる力や行動する力がついたと答えた生徒が多かった。また、赤ちゃん交流や保育園実習では、感じる力・考える力・行動する力・関わる力が連動して向上したように感じられる。
保育実習は「子育て学習プログラム」を活用して実施することができた。感想には、「子どもと関わることは楽しいと分かったので、親戚の子ども達とも積極的に関わりたい」「子どもに苦手意識があったが、払拭された」「自分が親に大切にされてきたのだと分かった」等があり、ポジティブな意識の変容のあった生徒が多かった。</td></tr>
<tr><td>「子育て学習プログラム」の実施を通して生徒の出産・子育て・人生設計について生徒の変容が見られる授業の工夫を行う。
［授業アンケートにおいて、意識の変容が見られたと解答した生徒(割合)］
<table><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr><tr><td>80%以上</td><td>79～60%</td><td>59～50%</td><td>49%以下</td></tr></table></td><td>A</td></tr>
<tr><td>情報</td><td>情報社会で適正な活動を行うための基になる考え方と態度、課題や目的に応じた情報手段の適切な活用ができる能力を養うとともに、受け手の状況などを踏まえた発信、伝達社会生活の中で情報や情報技術が果たしている役割や及ぼしている影響を理解させる。</td><td>「情報社会の問題解決」、「コミュニェーションと情報デザイン」、「コンピュータとプログラミング」、「情報通信ネットワークとデータの活用」の４単元をバランス良く指導し、情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養う。

［情報や情報技術を適切かつ効果的に活用する力が身についたと回答した生徒の割合］
<table><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr><tr><td>70%以上</td><td>69～60%</td><td>59～50%</td><td>50%未満</td></tr></table></td><td>A</td><td>A</td><td>情報社会の基礎知識や機器操作、情報発信におけるモラルの習熟を中心に学習し、多くの生徒がしっかりと理解をした。今後、生徒たちが、実生活の中で、学習内容を活かした行動等ができることを期待したい。
PCで文書作成やエクセル、プログラミング等を扱うにあたり、高校入学までの経験差が生徒間（学校間）で大きく、授業の進め方を工夫する必要がある。
情報社会の課題と情報モラルにおいて授業内で「情報に関する重大な事件」をできるだけ紹介し、手口、結果を説明した上で対策方法を考えさせたり話し合わせたりした。</td></tr>
</table>

学校関係者評価委員会による評価	「Ｆ３！」（高校全日制・定時制、附属中学校合同の探究活動報告会）をはじめ、授業や行事において、高校・分校・附属中の連携は進んでいる。それらのことを生徒・保護者や地域等に効果的に伝えることが大切である。進路実績はもちろん、探究活動や部活動等で素晴らしい実績を残しているので、良さをしっかりと伝えることで生徒募集に繋げてほしい。そのツールとして、昨年始めたFukustagram（インスタグラム）は有効であり、今以上に発信の頻度を上げることで小学生や中学生に学校の良さを伝えてほしい。若者は、インスタやTikTokに興味も示すので積極的に進めるべきである。

次年度に向けた改善の方向性	昨年度御意見をいただいた、探究活動における本校・分校・附属中学校のコラボは「Ｆ３！」として実現でき、探究活動の進化に繋がった。更によくしていくために、地域や小学校、中学校等を巻き込み、御協力をいただきながら、より進化した取組にしていきたい。昨年度始まったFukustagram（インスタグラム）を、頻度や内容等をより充実したものにすることで、本校の良さを積極的に発信していき、生徒募集に繋げたい。制服の変更をはじめ、変わっていく部分と既にある魅力、また高校文理科学科の魅力をあわせて効果的に発信し、教育活動を進化させながら選ばれる学校を目指す。